

こんな時だからこそ日ごろのあいさつ・声かけ・見守りを

ーコロナ禍にあってできる活動をー

福与区S C推進協議会会長 白鳥 彰政

福与区が安全安心な地域になることを願って生まれたセーフコミュニティ(S C)の活動も7年目を迎えました。

「既に幾つもの組織があつて活動しているし、福与のように区民のつながりがもともとよいところは、改めてS Cを作る必要はあるのか」という素朴な疑問を当初は持ちながらスタートしました。

しかし、手探りでS Cの活動を進める中で少しずつ見えてきたことがあります。それは、単独の組織だけで動くより幾つかの組織や団体が一緒になって活動する方が、より大きな成果を上げることができるということでした。

例えば、年々交通量が増加しているふるさと農道での事故防止のために人波作戦を実施したり、速度規制や追い越し禁止の法規制を求める陳情活動をして実現させたことは、一つの組織だけでは実現できなかったことです。

一方、S Cが担うべき役割として、現在の地域社会が直面している新しい課題への対応があります。

例えば、少子高齢化を反映した独り暮らしの高齢者が抱える生活不安や不都合への対応、近年の異常気象がもたらす災害への備え等については、少し前の時代には現在ほど問題にはされなかったことだと思われます。こうした諸課題については、地区内の組織や団体が連携しながら対応していくことはもとより、町当局や関係機関と緊密に連絡を取り合いながら活動を推進していくことが求められています。

昨年度から現在に至るまで新型コロナウイルス感染拡大により本協議会の活動も制限されております。しかし、こんなときだからこそ、福与の人と人のつながりを大事にしてきたよき伝統を継承し、日常生活でのあいさつ・声かけや見守りを心がけていただき、気になることや心配なことがありましたら一人で抱えていないで常会長さん、区会議員さん、民生児童委員さん、各委員長さん等々に是非連絡を取っていただきたいと思います。S Cの活動は日常の中、みんなでやっていくことが大事だと考えています。

本年度福与区S Cの委員になられた皆さまには大変お世話になりますが、以上をご理解のうえ本協議会へのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。